

第9回(平成27年度第1回)広報外部評価委員会

1. 日 時：平成27年10月20日(火) 13:30~15:30

2. 場 所：出島交流会館11階(長崎市出島町)

3. 出席者：菊森委員長、榎屋委員、大倉委員、金村委員、坂本委員

4. 議 題：(1)今年度実施事業について(報告)
(2)来年度に向けた見直しについて
(3)来年度の契約方法(案)について

5. 概 要

県が行う広報活動について、さらに効果的で効率的に進めるため、各委員の意見を聴取する。
各種広報媒体について、今年度の取組と来年度の方針を説明したうえで意見を聴取。

テレビ番組と広報誌(A R 動画含む)は、実際に見ていただいた。

【広報誌】

- ・全世帯広報誌「ながさきたより。」 11月号
A R 動画(てくてく、ながさきごはんレシピ、長崎の教会群)の3本を放映
- ・グラフ誌「ながさきにこり」 28(平戸市的山大島)

【広報テレビ番組】 2番組放映

県政番組「こちら県庁広報2課」

10月10日(土)~ 子育て家庭を応援!

10月17日(土)~ 本気で農業しよう! 県立農業大学校

6. 主な意見

全世帯広報誌「ながさきたより。」について

《概要》

- ・ 県民の県政への関心と理解を深めていただくとともに、県のイベントや募集など様々な情報をお知らせするため、月に1回、約52万部を発行。自治会経由による全戸配付を行っている。
- ・ 今年度は、読者アンケートで要望が多かった健康・子育ての情報を発信する「すくすいきいき」を新設。また、地域の魅力を紹介する「ながさきてくてく。」、県産食材を使った「ながさきごはんレシピ」、「長崎の教会群」を紹介する裏表紙の3つのコーナーでAR動画を導入し、誌面だけでは伝えきれない魅力を紹介している。

東京に開設予定の長崎県のアンテナショップには、「にこり」や全世帯広報誌「ながさきたより。」を置いたほうがいい。アンテナショップに立ち寄る方は、長崎県に高い関心を持った方や旅行先を探している方、UIターンに興味を持った方など様々。こういう方々にきちんと広報媒体を手渡すことが必要。

AR動画は非常に綺麗であるが、完成されすぎて隙がないと感じる。例えば「県のお仕事レポート」のコーナーにも、クオリティは低くても人間臭く、県職員が自ら仕事を伝えるような動画があると、親しみを感じてもらえるのではないか。

AR動画は周りを黒くすると読み込みやすくなる。読み込みに時間がかかるとストレスで動画を見ない方もいるはず。読み込みやすくなるよう工夫してはどうか。

動画はARにこだわる必要はない。Youtubeに動画を置いて、QRコードを誌面に貼る方法であれば、待ち時間も少ない。

裏表紙が写真になってから広報誌を残しておこうと思うようになった。地方創生というキーワードを考えたときに、地域の魅力やそれを物語るビジュアル、メッセージなどがあると県内外のどちらの方にもいいと思う。

裏表紙は、県民が参加する写真コンテストの写真や情報カレンダーにするなど、ずっと持っていてもらえる工夫をしてみてもどうか。

年配の方の会合に出席すると、来年のねんりんピックをものすごく楽しみにしている方が多い。ねんりんピックの情報を継続的に出せるコーナーがあるといい。

情報誌「ながさきにこり」について

《概要》

- ・県内各地域のさまざまな魅力を、写真を中心とした質の高いグラフ誌として紹介し、県のイメージアップや郷土に対する愛着を高め、長崎県の応援団の拡大につなげるため、年4回、3万2千部を発行。県内外に配布している。

「ながさきにこり」のような高いクオリティの広報誌はない。非常にシンプルで訴求力がある。あれもこれもと載っていないことが、人を惹きつけている。

航空機の機内誌かと思うくらい美しい写真が主体。説明も非常に洗練された日本語。以前の「ながさきにこり」とは誌面の使い方が違うが、2代続けて非常に良い作品になっている。

若干、字が小さい。長崎に来たいシニア層の旅行者が増えているので、字の大きさは重要な要素。

来年度からの見直しで「移住」を取り上げるのは良いと思う。移住を本当に考えている人は、「長崎はすごくいいところ」という情報だけでなく、それに伴う細かい情報を欲しが。そういう人に対してQRコードなどを活用して、細かいところまで教えてあげる配慮が必要。

「ながさきにこり」とアンテナショップとの連動を図るべき。アンテナショップに「にこり」を置き、「にこり」で紹介する県産品や旅行の資料をすぐそばに置くというのはどうか。

県政番組について

《概要》

- ・ 現行テレビ番組は、「こちら県庁広報2課」
架空の部署である広報2課の職員が取材し、県の施策や取組を県民の目線でレポートする。
4分番組で、NBCが制作したものを民放4局で毎週放送している。

わかりやすく丁寧に作られているが、「完成度が高い=注目度が高い、印象に残る」とは限らないと思う。

4人の出演者の役割がはっきりしていない。4人がそれぞれ担当分野を持って、イベントに出て行ったりするともっと身近に感じてもらえるのではないか。

送り手(県)側の視点、「わかってね」ということだけになっている。見ている人は、わかるために質問したり疑問があるので、ドラマの中で双方向の部分があってもいいのでは。番組の双方向というのは難しいが、例えば、農家の方が出てきて、「これはどうなっとつとね」という質問に答えるとか。県民目線に近いところから情報発信するののも一つの手だと思う。

映像表現が教科書どおり。最初のドラマで状況設定をして、県職員の説明があって、最後に情報はチェックしてね、という毎回お決まりのパターン。冒頭に農家の方が長崎弁で質問するなど“つかみ”を変えたり、構成の並びを替えたり等の工夫があってもいい。

子どもを使っても良い。小学生が県庁を探訪し、環境部に行っごみの問題を聞くなど、時々違ったものにすると、番組が全然違うものになる。マンネリ化を防いで、できるだけ興味を持ってもらうといい。

その他

「よかよかテレビ」は平成21年に開設して以来、映像の蓄積ができていると思う。見たい人のニーズによっては、年度の関係なく、テーマごとに紹介が出来るようにすると、県内外どちらの方にとっても便利。

「ながさきイーブックス」はアクセス数が少ない。

ウェブサイトは、積極性のある方が見る情報。これに注力していくことは大事。アクセシビリティの強化についてもこれから大事になってくるのではないか。

ふるさと納税について、県がまとめて紹介することがあってもいいのでは。